

多くの皆様のご支援に支えられて

1. 全国大会の実施

2012 年度はいのちの電話相談員全国研修会さっぽろ大会の開催に多くのボランティアの力が結集された年となりました。200 人の相談員が 365 日相談電話を受けながらの準備活動は大きなエネルギーを必要としました。大会が出来るのは 30 年に一度の出来事であり、私達にはもう 2 度とはないのだからガンバロウを合言葉にして取り組んだものの、全てが初めての経験であり試行錯誤の連続となりました。6 つの企画チームが結成されて、話し合いが連日のようになされました。企画チームのそれぞれの案を出し合い、事務局で横の連携を取り、統括チームでの決定を受けて更に具体案を纏める息の長い準備となりましたが、多くの参加者の笑顔が大きなご褒美となりました。

全国相談員研修会さっぽろ大会概要

期 間：2012 年 10 月 12 日(金) から 14 日(日)

場 所：札幌パークホテル 北星学園大学

参加者：全国からの相談員・講師 総数 691 名

2. 相談電話受信数

2012 年暦年の相談件数は 18,787 件で前年比 93% でした。一日平均は 51 件、平均相談時間は 31 分でした。前年に初めて 20,000 件を超えましたが、今年度は実動相談員の減少した影響を受けました。FAX 相談件数は 40 件でした。

3. 事業推進委員会の立ち上げ

2012 年 3 月に解散した後援会の後を引き継いだ事業推進委員会が委員 22 名、サポーターズ 19 名で活動を開始しました。三越前でのチラシ配りの啓蒙活動や全国大会での道案内を行い、11 月 13 日には恒例の「大平まゆみと仲間達」コンサートを成功させました。

4. 相談員数

12 月末相談員数 194 名(前年同期比 7 名減) 33 期生 10 名を認定し、34 期生は 28 名が 1 年目研修を修了しました。一方休務者・辞退者が年間 21 名となり、毎年 20 名以上の新しい相談員を募集していかなければ現状維持が出来ない状況にあります。

5. 財務状況

収 入：会員の会費・寄付は減少しましたが、札幌青年会議所からブルーアース基金助

成金が200万円交付され、その他、(財)北海道新聞社会福祉振興基金、(財)札幌信用金庫社会福祉基金、北海道労働金庫から助成金の交付を受けることが出来、愁眉を開くことが出来ました。

事業推進委員会のコンサートにもメインスポンサーの他に多くの企業団体からパンフレットに広告を掲載して頂き、予算以上の収益事業繰入額を計上出来ました。

養成講座参加費は今年度より2年間分割にて納入することに変更しました。

支出：養成研修は予定通りの研修を実施しましたが、相談員の継続研修は全国大会準備活動の負荷増を考慮し、専門家によるスーパービジョンを取り止めるなどの調整を行いました。人件費は大会準備に関わる費用を大会経費計上といたしました。

全国大会の費用の収支は大会スポンサーとの精算作業が年度内に終息せず、収支額の法人収支繰入は2013年度決算に持ち越されることになりました。

収支差額：年度予算額35万円にたいして103万円の繰越となりました。

6. 各会議の実施

法人の運営に関する諸会議がもたれました。

●理事会・評議員会

5月26日 2012年度理事長基本方針 2011年度決算報告

収益事業計画 全国大会収支予算

11月10日 中間フォロー 全国大会終了報告

3月23日 補正予算審議 収益活動収支報告 全国大会収支見込み

●運営会議

毎月開催 常設委員会委員長・同副委員長・相談員会代表・事務局出席

月次収支状況・各委員会報告・月次課題の審議・調整

●各委員会 研修委員会は月次開催 他の委員会は必要都度開催

●相談員会 総会及びグループ世話人による会議

●連盟理事会・事務局長会議に出席

2012年 相談電話統計

1. 相談電話受信状況

総受信件数 18,787 件、男性 9,074 件女性 9,713 件で男女差がなくなりつつあります。1日の平均受信数は、51件です。

自殺予防フリーダイヤルは、毎月10日午前8時～午後9時30分＝うち6月・9月・11月は24時間受信、年間12日間での受信数は、342件、男性201件・女性141件です。

自殺志向は、通常電話では1,968件男性659件・女性1,309件、総受信数の10.4%です。

自殺予防フリーダイヤルでは、96件男性50件女性46件、フリーダイヤル受信数の28.1%です。

a. 年間総受信件数

	男性	女性	合計
総受信件数	9,074	9,713	18,787
(前年)	9,028	11,148	20,176
フリーダイヤル再掲	201	141	342
(前年)	249	155	404

b. 自殺志向件数

	男性	女性	合計
自殺志向件数	659	1,309	1,968
(前年)	419	601	1,020
フリーダイヤル再掲	50	46	96
(前年)	44	28	72

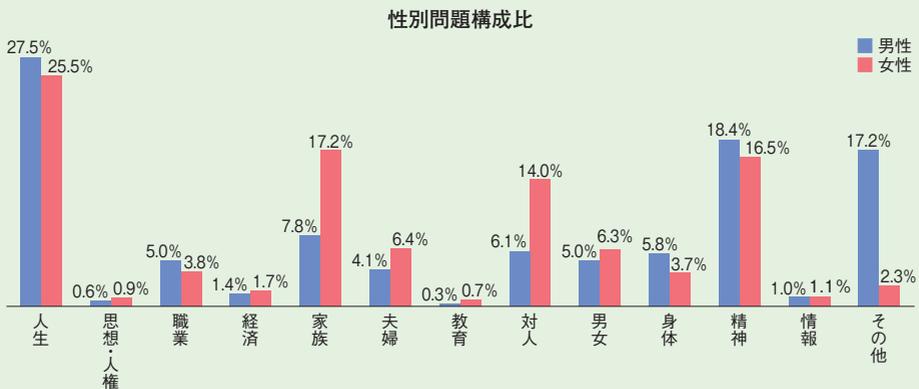
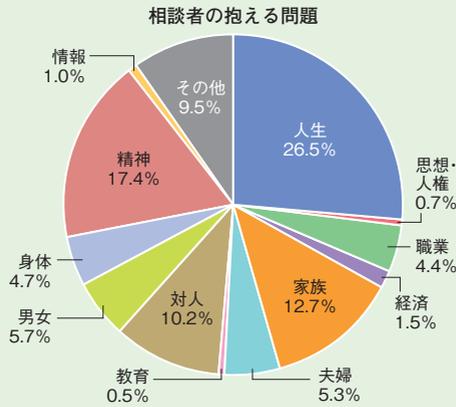
2. 相談者の抱える問題

生き方・生きがい・孤独などの「人生」は26.5%、男性27.5%女性25.2%で際立つての差はありません。

「家族」の項目では、男性が7.8%女性が17.2%と男性の約2.2倍になっています。同様に「夫婦」でも男性4.1%女性6.4%と男女差が見られます。

保健医療分野での精神（うつ、統合失調症、嗜癖行動など）は、全体で17.4%男性18.4%女性16.5%です。

精神的な病を抱え生きていくことの困難さが語られます。



3. 年代別統計

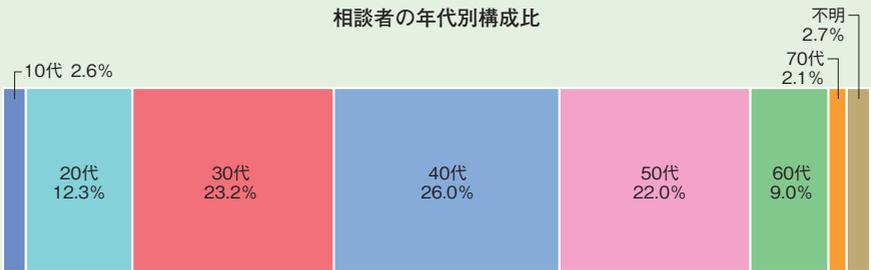
40代 26.0%、30代 23.2%、50代 22.0%の順位は昨年度と変わりません。

男性の50代が昨年 17.2%から 21.9%に増えました。

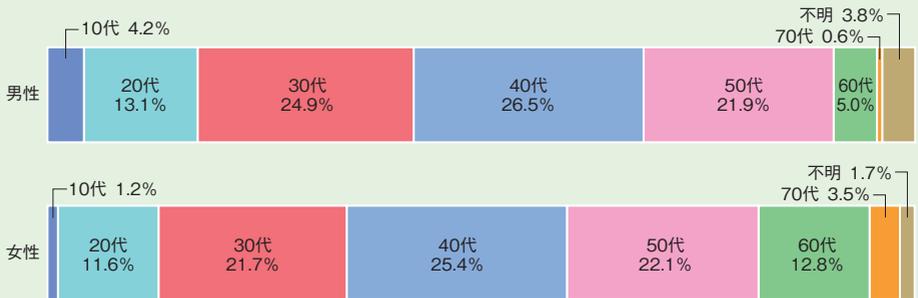
女性は60代が 12.8%と昨年の 20.8%より減少しています。30代は昨年 19.8%と減っていましたが今年は 21.7%と2年前の割合に戻っています。仕事の辛さと先行きの不安が語られます。

20代は男女ともに数年来減少傾向ですが、昨年の 13.3%より 12.3%と減少が続いています。

相談者の年代別構成比



性別年代構成



4. 自殺志向

昨年は減少した自殺志向の件数が、1968件と昨年より948件と大幅に増えました。

男性33%、女性67%の割合となっています。

問題別では、「人生」が昨年59.0%から40.4%と減少しました。「保健医療」は身体2.8%精神27.0%となっています。

「家族」が10.0%、「男女」2.8%、「対人」4.4%「夫婦」4.5%を占めます。

漠然とした不安や孤独が、家族・夫婦・対人など具体的な出来事が生きることへの困難さに繋がっていると思われます。

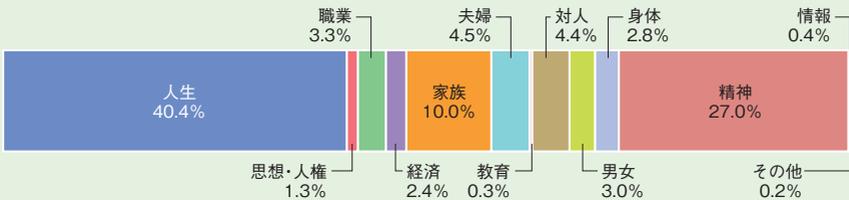
また精神的な病があることで、家族・夫婦・対人などの関係の難しさ、生きづらさが増しているのを感じます。

2012年は実際の自殺者は減少しましたが、「死にたい」「生きているのが辛い」と語る自殺志向は増えています。

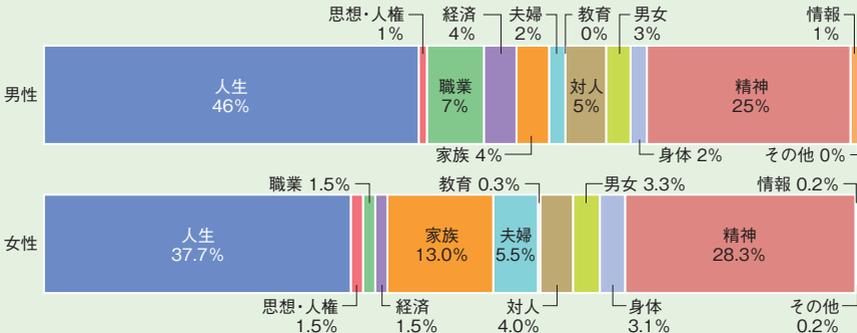
その思いを、「いのちの電話」にくり返して語りながら、今日一日をкаろうじて生きている人の多さを感じます。

この「死にたいほど辛い」思いに耳を傾ける人がいて「今日一日を生きてみる」と思われることを願って、相談員は耳を傾けています。

自殺志向の方の抱える問題



性別問題構成



5. 震災ダイヤル

2011年3月11日の東日本大震災により、甚大な被害を受けた宮城・岩手・福島・茨城4県から発信限定で全国のいのちの電話センターが、13時～20時「震災フリーダイヤル」を実施しています。

当センターは月に3～4回受信しています。

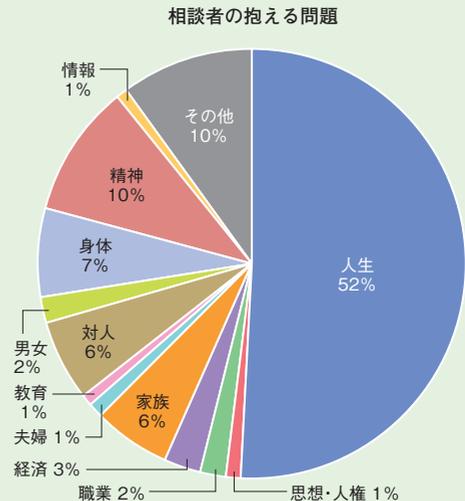
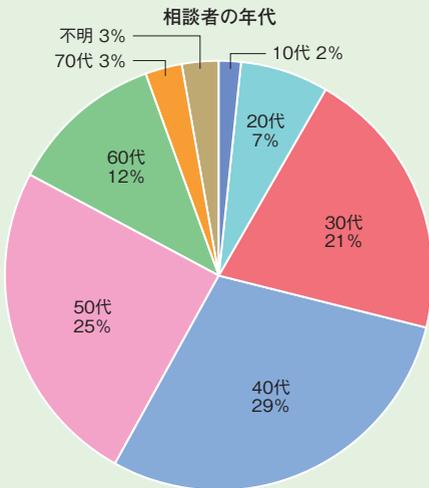
2012年1月～12月の受信件数は434件男性229件女性205件です。

1) 年代別受信件数

30代40代の男性が「仕事がない」「生活の見通しがたたない」「元の生活を取り戻すには、どうすればいいのか」など家族を養わなければならない『男の役割』の辛さ・切なさを語ります。

女性は精神的な不安定さ「生きていていいのか?」「これからどう生きていこう?」などと先行きへの不確かさが伺えます。

また、大きな余震があると「思いだされて不安になる」との訴えの電話が続きました。



自殺志向の割合は、総受信件数の9.6%、男女の比率は男性40.4%、女性59.5%と、通常電話の自殺志向よりは少なくなっています。

震災から時間が経過しても、その時の状況が思いだされて、失ったもの、取り返しのつかないことが語られます。

また、日常生活は続いているものの満たされない思いが語られます。

被災者への援助の不公平さを感じる訴え、東京電力への恨みなど社会への不満も語られています。

時間が過ぎて『復興』に向かっていく中で、「自分だけが取り残されてしまった」「震災の時から立ち上がることが出来ないでいる。この辛さ、苦しさは誰にでも語るができない、この『震災ダイアル』では語ることが出来る」と胸の内をそっと語ります。

「誰にも語らない、誰でも語ることが出来ない」ことに耳を傾けていく「いのちの電話」として、これからも聴き続けていきたいと思います。



2012年度 収支決算書

収入の部

円

科目	2011年度	2012年度	前年比	備考
寄付金・会費	14,591,283	12,102,447	83%	
補助金	2,673,557	2,900,000	108%	道庁・札幌市
分配金	1,100,000	1,100,000	100%	共同募金
助成金	300,000	2,400,000	800%	JCI、札信金、道新、労金
養成講座参加費	1,074,000	412,000	38%	
その他収入	165,748	66,604	40%	金利他
コンサート収益	1,500,000	1,985,567	132%	
収入合計	21,455,178	20,966,618	98%	

支出の部

科目	2011年	2012年	前年比	備考
相談事業計	7,503,509	6,865,014	91%	
事業管理費	1,338,157	1,068,460	90%	賃料・借用損料
養成研修費	1,866,295	2,467,802	132%	講師費・運営費
継続研修費	3,238,287	2,211,869	68%	講師費・運営費
研究調査費	236,140	155,894	66%	対外研修参加費旅費
広報費	711,330	897,480	126%	広報・ホームページ等
事業支援費	113,300	63,509	24%	公開講座・バザー
センター管理費計	12,964,379	12,234,778	94%	
管理費	2,046,593	2,077,951	96%	事務局賃料・光熱費
事務費	1,687,984	1,499,384	96%	事務経費
事業推進費	2,166,297	2,308,486	107%	分室賃料・運営費
人件費	7,063,505	6,348,957	90%	事務局人件費
分担金	367,000	385,000	105%	連盟抛出
減価償却費	380,693	448,894	118%	
支出合計	21,215,581	19,933,686	94%	
次期繰越金	239,597	1,032,932	431%	

会費・寄付納入状況

円

分類	2011年度		2012年度		前年比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
企業・団体	342	7,894,655	299	6,721,123	87%	85%
個人	1267	6,530,832	1162	5,339,728	92%	82%
募金箱	38	165,796	10	41,596	31%	25%
合計	1647	14,591,283	1471	12,102,447	89%	83%

2012年度 貸借対照表

借方

貸方

勘定科目	金額	前年同月	勘定科目	金額	前年同月
流動資産	9,799,129	5,597,012	流動負債	325,064	184,212
現金	9,751	47,923	未払い金		
銀行預金	4,300,078	2,586,495	借入金		
前払費用	199,950	202,950	預り金	325,064	184,212
未収金	3,995,936	0	未払い費用		
仮払金	0	0	基金	16,336,000	16,336,000
立替金	1,293,414	2,759,644			
固定資産	22,119,302	25,147,635	基本財産基金	16,336,000	16,336,000
電話加入権	336,000	336,000			
什器備品	1,692,441	1,708,735	基本財産積立金	2,000,000	2,000,000
建物付属設備	90,300	102,900			
基本財産基金			事業運営積立金	8,000,000	8,000,000
引当預金	16,000,000	16,000,000			
基本財産積立金			繰越金	5,257,367	4,224,435
引当預金	2,000,561	2,000,000	前期繰越金	4,224,435	3,984,838
事業運営積立金			当期収支差額	1,032,932	239,597
引当預金	2,000,000	5,000,000	純財産合計	31,593,367	30,560,435
流動固定資産計	31,918,431	30,744,647	負債純財産計	31,918,431	30,744,647

2012年度監査報告

社会福祉法人 北海道いのちの電話 理事長 南 楓子 殿

平成 25 年度第 3 回監事監査結果について、次の通り報告する。

監事 松田 俊一 
 監事 青山 力 

監査日時 平成 25 年 5 月 18 日 監査場所 北海道いのちの電話会議室

監査実施内容 平成 24 年年度の一般会計と特別会計（収益事業）業務執行状況及び会計収支状況について説明を受け、会計報告書と帳簿票を照合の結果、適正かつ正確であることを確認した。

監査結果 記録計算に相違なく、定款、諸規定に照らし適正に運営されていることを確認した。

2013 年度 事業計画

2012 年度は全国大会の開催に相談員の多くの力が注がれた。2013 年度は落ち着いた本来の姿に戻る。

1. 震災ダイヤルの終了を受けてフリーダイヤルの強化

東日本大震災以降継続されてきた震災ダイヤルは 9 月末をもって終了となるが、被災者の心のケアは未だ必要である。毎月 10 日のフリーダイヤルはその意味においても益々重要性を増すものと思われる。今までの震災ダイヤル相談の力を引き続きフリーダイヤル相談に込めたい。

2. 専門家によるスーパービジョンの復活

実相談によるスーパービジョンの回数を増やす。

3. 相談員によるリーダー研修の充実

宿泊研修の実施。月例研修の充実。

4. 養成講座 36 期生研修スタッフの増員

カリキュラムの円滑実施。

5. 広報活動の充実

広報誌 3 回の発行と 2 回の市民公開講座の実施。

6. 市民啓蒙活動の充実

世界自殺予防デーに地下歩道空間でのライブ演奏による啓蒙活動実施。

7. チャリティーコンサートの新企画

アフタヌーンティーパーティーの企画実施。

8. 企業・団体への支援お願い

寄付・協賛広告等の要請。

9. 傾聴講座の発展

学校等への講師派遣。

10. ナビダイヤル受信

新しく加わったナビダイヤル相談に対応する。

2013年度 収支予算書

収入の部

円

科目	2013年度予算	備考	前年比
寄付金・会費	14,810,000		122%
補助金	2,900,000	北海道・札幌市	100%
分配金	1,100,000	共同募金	100%
助成金	1,300,000	団体・企業	54%
養成講座参加費	1,300,000	35期後期・36期前期	316%
その他収入	150,000	金利他	225%
コンサート収益	1,100,000	推進委員会・支援委員会	55%
収入合計	22,660,000		108%

支出の部

科目			
相談事業計	8,940,000		130%
事業管理費	1,130,000	相談室賃料・借用損料等	106%
養成研修費	2,600,000	講師費・運営費	105%
継続研修費	3,600,000	講師費・運営費・合宿費	163%
研究調査費	450,000	対外研修参加旅費	289%
広報費	860,000	広報・ホームページ	96%
事業支援費	300,000	公開講座・バザー運営費	472%
センター管理費計	12,290,000		105%
管理費	2,000,000	事務局賃料・光熱費	96%
事務費	1,500,000	事務諸経費	100%
事業推進費	2,500,000	分室賃料・運営費	108%
人件費	6,790,000	事務局運営費	107%
分担金	370,000	連盟	96%
減価償却費	460,000		102%
支出合計	22,560,000		108%
次期繰越金	100,000		10%

役員名簿 (2013年3月31日現在)

理事長	南 横子				
常務理事	高杉 純二				
理事	今野 涉	島津 宏興	田野島 隆	坪田 伸一	永井 信
	間宮 和代	牧 泰昌	吉田 陸雄		
監事	青山 力	松田 俊一			
評議員	秋山 暢子	安藤 健一	石井 美雪	池田 光幸	池田 輝明
	植松 誠	太田 一男	小野 道弘	勝谷 太治	川守田京子
	小林 幸一	佐々木三郎	佐々木正晴	嶋津 博	諏訪 亨
	返町 賢治	田辺 等	築島 健	梨谷 哲榮	野田 敏夫
	米倉美佐男				

組織図

